

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 今が一番館（東棟）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101006		
法人名	特定非営利活動法人 今が一番館		
事業所名	グループホーム 今が一番館（東棟）		
所在地	〒020-0624岩手県滝沢市妻の神157-3		
自己評価作成日	令和5年10月30日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアの徹底 ・ADLの低下予防 ・コロナ後の利用者と家族の面会時の工夫
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑、線路、板金塗装工場が隣接し、民家が散在する田園風景の残る郊外の住宅地に位置している。東西2つのユニットで構成され、施設長の統括の下で職員全員で事業所全体の利用者のケアに当たっており、「勉強会」「カンファレンス」等の諸会議も事業所全体で実施するなど、両ユニットは一体的に運営されている。「安心して下さい。いつもあなたの傍に私達がいます」を理念に掲げ、職員は利用者が自由に日常生活を送れるよう個別の支援に取り組んでおり、毎月、職員が個人ごとの生活の様子を書き、さらに施設長がコメントを付した「報告書」を家族に送っている。また、ADLの低下を予防するため、利用者は昼食前に全員で軽体操を行ったり、個別に廊下を歩行したりして下肢の機能維持に取り組んでいるほか、天気の良い日には、周囲に咲いている花などを楽しみながら、広い敷地の中を往復して外の空気にも触れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の遵守	理念は設立当時の職員全員で1ヵ月かけて作成した。職員間で共有するとともに、作成当時の職員2名が現在も勤務し後輩職員に理念をつなげている。また、職員一人一人が理念を展開する年間業務目標を決め、3ヵ月ごとに振り返り見直ししながら利用者の支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1回/月のオレンジカフェ(滝沢市内4か所のグループホームと滝沢市で運営している認知症カフェ)等への参加により、地域の流れを把握している。	コロナ禍で中止されていた秋祭りなどの地域の行事が再開されたものの、今年度は参加を控え来年度からの参加を検討している。管理者は、地域の教育振興会や父母会の関係者として、小学校や保育園などに出かけて交流しているほか、認知症の人たちが買い物を楽しむ地域の「スローショッピング」のボランティアとして毎週支援活動を行っている。また、事業所では市が委託して行っている「認知症まちかど相談室」や「オレンジカフェ」の開催に協力している。	管理者はボランティア等として地域に出向き、地域と深く関わっていますが、コロナ禍ということで事業所と地域との交流の機会が少なくなっています。コロナ禍にあっても地域との関係維持を図るため、自治会の回覧板などを利用して、事業所の様子や行事の情報をお知らせしたり、認知症のケアや相談対応など、身近にある地域の事業所が持つ強みをアピールすることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同上			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的な課題提供で参加者の意見をいただいている。	会議のメンバーに、家族代表、地域住民、民生委員、市担当課職員、地域包括支援センター職員が入り、毎回テーマを決めて話し合いを行っている。以前は利用者も参加していたが、長時間の会議は身体的に難しくなってきたため、現在は参加していない。事業所から管理者、リーダー、サブリーダーの3人が出席している。会議では事業所の現状のほか、ヒヤリハット事例などもテーマとなり、意見をいただいている。職員には勉強会で結果を報告し、情報の共有を図っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	火災時想定避難訓練等に自治会の参加を呼びかけている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、会議で助言、情報をもらうことが多い。市担当課の職員とは、直接会って顔が見える関係づくりを意識し、書類提出などで直接担当課へ出向いたり、事業所の実情や意見を聞いてもらうことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、委員会を開催し、現場での気になる点等を話し合い、その後勉強会等でフィードバックし、適切なケアの提供が行われるようにしている。	身体拘束廃止の指針を作成し、身体拘束適正化委員会を3か月ごとに開催している。言葉遣いなど業務で気になることを話し合うとともに、毎月の勉強会にフィードバックして適切な支援に努め、勉強会では「身体拘束廃止いわて宣言」を唱和している。玄関の施錠は日中は行わず、外に出て行く利用者には職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言動等の小さなことも施設内の職員で守っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の家族からの申し出や家族のいない利用者へ働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に詳しく説明し、了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族への施設での報告書を送付し、了解を得ている。	毎月、利用者一人一人の状況(行事の様子、通院状況、食事、日常の生活など)を職員が手書きし、写真を添えて管理者のコメントを付した「お便り」を家族に送っており、意見や要望を寄せやすいようにしている。また、3か月ごとの介護計画の見直しに当たっては、事前に電話等で家族から要望等を聞いている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月に勉強会と称して、職員間の意見交換をしている。	管理者は朝の申し送り時などに職員の意見を聞いている。また、月1回の勉強会をユニット合同で実施し、職員間で意見交換をしたり、各種委員会(危機管理委員会、レク委員会など)で職員が話し合っただけの提案の報告を受け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1回/月の勉強会が意見交換の場所にもなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で難しい事もあるが、e-ラーニングやZOOM等で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しずつ他事業所との意見交換等も考えていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お会いした際にはご本人が不安にならない様話を聴きながら要望等を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お会いした際にはご家族の思いに耳を傾け、安心してご家族を預けて頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等からの情報や入居前に関わった方々の情報も含め必要なサービスが提供できるよう努めている。		

事業所名：グループホーム 今が一番館（東棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの生活状況、ペースを大切にしながらやりたい事、出来る事を見極め一日の生活を助け合いながら送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればなるべく早くご家族へ連絡を取っている。その際ご家族の意見や以前の暮らしの様子などを聞くこともありケアに繋げていくことが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は控えているが感染症対策を行いながら徐々に面会はして頂いている。	入居時のアセスメントの際、センター方式により利用者の馴染みの人や場所を把握して関係継続を支援している。コロナ禍により、以前訪れていた場所へ出かけていないが、墓参りに家族が連れて行ったり、家族がいない利用者は職員が連れて行ったりしている。また現在、家族との面会は、玄関ホールで15分間程度は可能としている。月1回訪問する理容師が新たな馴染みとなっている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでは利用者同士楽しく過ごせるようテーブルの飾りを工夫したり、職員も間に入りながら話のきっかけ作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を伺ったり、ご相談頂いた場合はご要望に沿えるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、要望などあれば記録、申し送りなどで職員間で共有している。	利用者は言葉での意思疎通や問いかけると話すことができるので、職員は利用者の話しを傾聴して希望や意向の把握に努めている。お茶の代わりに牛乳やコーヒーが飲みたいと話されることも多く、職員は一つ一つそれに応えている。利用者の希望や意向を記録し、申し送り等で職員間で共有している。コロナ禍のため面会の希望に応えていなかったが、前回の外部評価後に禁止していた面会を玄関ホールでできるように変更している。	
----	-----	--	---------------------------------	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、今までのサービス情報などからこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースを大切に、その方にあったお手伝いをして頂きながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで意見交換しご家族には面会時や電話で要望等を頂いている。ご本人には出来る方には直接話を聴いている。	3か月ごとに2ユニット合同でカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。モニタリングは、支援が介護計画どおりに進んでいるか、利用者に変化はないかなどに留意して、職員全員で行っている。家族には電話で要望を伺い、意思を伝える事ができる利用者には直接聞くなどして、計画担当者が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録を用い一日の様子が一目で分かるようにしている。本人の言った言葉をそのまま記録しその時の状況がよく分かるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態、状況などに合った支援が出来るよう職員間で意見を出し合い取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の相談員と月一回タブレットで会話をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医には開所当時から健康診断や各種ワクチン接種をおこなって頂いている。希望される方は入所前からのかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。	ほとんどの利用者は入居前からの医師をかかりつけ医とし、通院には事業所の看護師が同行し、利用者の状態を詳しく医師に説明している。受診結果は家族にお知らせしている。事業所の協力医は、来所して健康診断や各種のワクチン接種を行っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り等で情報を共有している。通院は看護師が担当している為、利用者の様子や気になる点なども主治医に伝えてもらい指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	経過や状態などでご家族、病院と連絡を取り相談させて頂いたり、情報交換支援している。状態によってはその方に合った施設入所支援が出来るよう細目に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設での支援内容について説明しご理解頂ける様努めている。入所時に説明し、要所所でご家族には伝えて行くようにしている。	「利用者の重度化及び看取りに関する指針」を作成し、以前は看取りを行っていたが、現在は、協力医の事情で終末期の看取り診療を止め、病院への入院や特養への入居を勧めている。入居時に本人と家族に、重度化や終末期における事業所の対応について説明し理解を得ているが、中には看取りを希望する利用者と家族もあり、かかりつけ医の指示を得ながら看護師が日々観察し、可能な限り適切な支援ができるように努めている。	現在は医療連携体制の事情で看取りを止めておりますが、今後医療連携体制が整ったときに備えるとともに、これまでの経験をつなげるためにも、研修を継続的に実施することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で訓練等は行っていないのが現状。マニュアルを利用したり、看護師の指示を受けながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	危機管理委員会を中心に必要物品の購入、管理を行っている。年二回、日中、夜間想定で避難訓練を行いその後意見交換を実施している。日中の訓練では運営推進会議の参加メンバーにも参加して頂いた。	年2回、夜間想定と日中の火災避難訓練を実施している。日中の訓練時には運営推進会議のメンバーにも参加してもらっている。夜間想定訓練の結果、防寒着や毛布の必要性を体得できたとしている。災害時には、近隣に住む3名の親戚が協力してくれることになっている。備蓄に関しては、危機管理委員会が物品の購入、管理を行い、賞味期限が近い物はフードバンクに寄付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴介助には特に気をつけるようにしており、居室に入る際もきちんとノックし声掛けをしっかりと行うようにしている。異性介助に関しても本人の意思を確認しながら行っている。	利用者の誇りやプライバシーの確保を常に意識して日常生活を支援しており、特に、利用者への言葉掛けが馴れ合いの言葉遣いとならないよう気を配るとともに、トイレや入浴時にはプライバシーを損ねないように気をつけている。入浴時の異性介助についても利用者の意思を確認して行っている。居室に入室する際は、ノック、声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人と接していく中で関係性を構築し自分の意思を表出出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースも様々なため、体調や身体状況を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色や季節に合った服装が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事、誕生日会では好きな物が食べられるよう準備したり、食器拭きなどの片付けを手伝って頂いている。	コロナ禍のため、職員が同席同食することや外食は行っていない。配食サービスを利用し、補助的な食材だけを職員が購入している。誕生会等の行事食は、利用者の好みや希望に合わせ、寿司、刺身などを提供し、喜ばれている。日々の食事では、盛り付けを工夫し見た目で楽しめるようにしている。利用者は食器拭きなど、できることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い状態の把握、本人の好み、季節などを考慮しながら支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し必要なケア用品を使用し毎日清潔に過ごして頂ける様支援している。歯科受診が必要であれば対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行けない方は訴え時や定期的なトイレ誘導やオムツ交換など、それぞれにあった対応をしている。	利用者の多くは自立してトイレで排泄でき、或いは適時の声掛け誘導によってトイレでの排泄が可能となっている。布パンツの使用者はおらず、リハビリパンツやおむつなど、一人一人の状況に応じたものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、水分摂取量の確保が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い入る日や時間を決めず一人ひとりに合わせた入浴の仕方で支援している。	1人当たり週2、3回入浴し、時間は自由となっている。入浴を嫌がる利用者には無理強いをせずに、言葉掛けを工夫したり場面を変えたりして入浴に導いている。入浴時は、体重測定や、介助をしながら身体のチェックにも気を配り、水虫や痒みでのひっかき傷のケアにも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を清潔に保ち、お昼寝も含め眠くなったらすぐに休んで貰えるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し分からないことは調べたり、看護師や薬局の方に確認するなどしている。変更があった場合は体調の変化等に注意し報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、掃除、食器拭きや毎日の体操、手芸、敷地内の散歩など支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前の様に外出支援は出来ないが敷地内の桜で花見、栗拾いなどの気分転換、棟内で出来るレクリエーションの支援をしている。	コロナ禍によりなかなか外出支援ができない状態だが、利用者は敷地内を散歩したり、敷地内の桜を見たり、栗拾いをするなどして楽しんでいる。中には事業所の畑作業に携わり、収穫も楽しんでいる利用者がある。今後は法人のデイサービス事業所の車を利用した外出支援を行っていただければとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物のための外出支援は行っていない。必要物品があれば職員が購入し渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自ら電話をかける方はおられないが、手紙のやり取りや電話がかかってきた場合はお繋ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには花や観葉植物、季節の飾りつけを行い楽しんで頂ける様にしている。換気のため窓を開ける際は開ける際は冷暖房を活用しながら不快な思いをさせない様努めている。	共用の食堂兼ホールには食卓兼用のテーブルと椅子が置かれ、エアコンや加湿器で温度、湿度も過ごしやすく調整され、快適に暮らせるように環境が整備されている。生花や観葉植物のほか、壁面には季節に相応しい大きな鬼面や装飾が飾られ、利用者の書初めも掲示されている。利用者はテレビで相撲番組や「水戸黄門」のビデオを見て楽しんでいる。以前は小上がりに炬燵をしていたが、座ることのできる利用者がいないため、今はしていない。小上がりには2匹のネコのねぐらが置かれており、利用者はネコに癒されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士席を近くにしたたり、座敷に上がるところに腰掛け話をするなど出来ている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	使い慣れたタンスや物を入れたり、家族や飼っ ていたペットの写真を飾るなどして頂いている。	居室は落ち着いた色のある色で彩られ、ベッド、写真 等を貼るボード、温風ヒーター、カーテンで仕切ら れたクローゼットが備え付けられている。利用者 は、それぞれの好みで、テレビやタンス、ポット、 お位牌など、馴染んだものを持ち込み、手作りの 手芸品や家族の写真などを飾り、居心地良く過 ごすことができる居室づくりをしている。居室の入 口には、年輪の見える木材で作られた名札が取 り付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を準備したり、トイレの場所や 流す場所が分からない場合は大きく色を付けて 表示したり、可愛い写真を貼るなどの一人ひとり にあった工夫を凝らしている。		